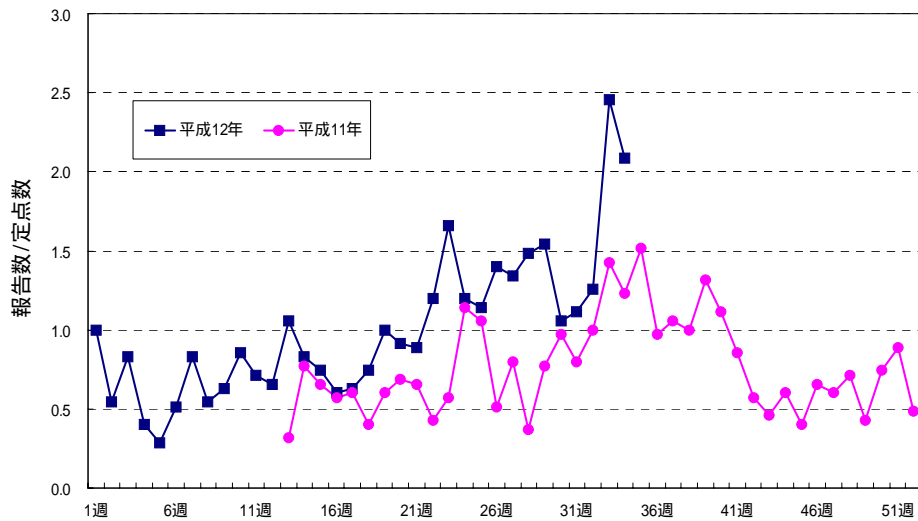


愛知県感染症情報

平成 12 年第 34 週（8 月第 4 週）

（コメント）

流行性角結膜炎は依然流行が続いています。手足口病流行は終息にむかっています。3類感染症に属する腸管出血性大腸菌感染症の報告数が多くなっていますので注意してください。



流行性角結膜炎（名古屋市を含む、平成11年は、13週（4月1日～）から）

（先生方からのコメント）

● 尾張西部地区

- ・ サルモネラ O-8 1歳半男
（木曾川町 さかたこどもクリニック）
- ・ 病原性大腸菌検出者 O-1 1歳男
マイコプラズマ肺炎3名（1歳男、2歳男、11歳男）
（尾西市 城後小児科）
- ・ 流行している感染症なく落ち着いた一週間でした。
（江南市 みやぐちこどもクリニック）

● 尾張東部地区

- ・ 手足口病も少し落ち着いたようです。
水痘、突発性発疹症、流行性耳下腺炎等散発。
（尾張旭市 佐伯小児科医院）
- ・ EB ウィルス感染症（伝染性単核症）+化膿性扁桃炎 2歳女児が1例ありました。今年は1週間高熱の続くEB ウィルス感染症3例目です。カンピロバクター6歳男児1例ありました。手足口病も少し

みられます。

(春日井市 かがわ北病院)

- ・ 伝染性紅斑患者出現

(小牧市 小牧市民病院小児科)

● 西三河地区

- ・ 病原性大腸菌 2 名 (O-6 2 歳男、O-8 10 歳男)
カンピロバクター腸炎 2 歳男
サルモネラ腸炎 2 名 (5 歳女、4 歳女)
(豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック)
- ・ サルモネラ O-4 2 名 (4 歳女、2 歳女)、O-8 6 歳男、
カンピロバクター 9 歳男
(幸田町 とみた小児科)
- ・ カンピロバクター 7 歳男
(岡崎市 にいのみ小児科)
- ・ サルモネラ O-9 6 歳男
(岡崎市 医療法人川島小児科水野医院)
- ・ カンピロバクター 2 名 (2 歳女、4 歳男)
(岡崎市 花田こどもクリニック)
- ・ サルモネラ O-4 6 例 (19 歳女、10 歳男、6 歳女、3 歳男、2 歳女 2 例)
(碧南市 永井小児クリニック)
- ・ 大人の溶連菌感染症は、子供からの感染です。
(西尾市 やすい小児科)

● 東三河地区

- ・ ヘルペス歯内口内炎 1 歳男
(豊橋市 野村小児科)
- ・ サルモネラグループ O-4 3 歳女
(豊橋市 こどもの国大谷小児科)

(1~3 類感染症の発生状況)

腸管出血性大腸菌感染症患者 5 名

- ・ 知多保健所から報告の 10 歳女 8/15 発病、8/17 初診、8/21 診定。菌型は、O-157 VT2 (+)
- ・ 安城保健所から報告の 26 歳男 8/13 発病、8/17 初診、8/21 診定。菌型は、O-157 VT2 (+)
- ・ 安城保健所から報告の 24 歳女 8/17 発病、8/19 初診、8/21 診定。菌型は、O-157 VT1・VT2 (+)

- ・ 豊田市保健所から報告の 4 歳男 8/16 発病、8/17 初診、8/23 診定。菌型は、O-157 VT2 (+)
 - ・ 一宮保健所から報告の 1 歳女 8/20 発病、8/22 初診、8/24 診定。菌型は、O-157
- 腸管出血性大腸菌保有者 1 名
- ・ 安城保健所から報告の 26 歳男 8/22 初診、8/25 診定。菌型は、O-157 VT1・VT2 (+)

(全数把握の 4 類感染症の発生状況)
発生はありません。

第 33 週 (8 月 14 日 ~ 8 月 20 日) の 4 類感染症の全国状況
咽頭結膜熱、手足口病の定点当たり患者報告数は減少傾向にあるが、例年の同時期にくらべやや多くなっている。流行性角結膜炎は茨城県で 3.9 と定点当たり報告数が多くなっている。

(Infectious Diseases Weekly Report より抜粋
厚生省感染症研究所感染症情報センター感染症情報)

2000年7月14日号(75巻28号)

黄色ブ菌食中毒。日本。7月10日時点で日本の厚生省が13,809例(要入院180例)のブ菌食中毒が発生していることをWHOに報告。(注。広く報道されていて読者の皆様はご存じだと思いますので本号報告の詳細は省略します。)

コレラ。ミクロネシア。4月17日に初発し、6月26日までに954(死亡9)例の流行がボナペ島からWHOに報告。エルト-ル小川型。予防措置実施中。

世界のレブラ。1991年、WHOは2000年には世界全体でレブラの患者数を人口1万あたり1以下とすることを目標に設定。2000年当初の報告で91ヵ国から患者数は640,091例、新規患者数は678,758例となっている。本報告はWHOの各地区別報告数と各国別の届出状況。人口1万当り届出数で目立つのはミャンマ-5.9、ネパ-ル5.7、インド5.0、マダガスカル4.7、ブラジル4.3、マリ3.9、であり、人口の多さからインドの患者数537,956やブラジルの患者数42,055が目立っている。新規患者が多い国を常在地と考えると多い順にインド、ブラジル、ミャンマ-、インドネシア、ネパ-ルであり、世界全体の98年と比較して99年は8.2%減少であるがアフリカ地区は8.0%増加、インドの年別届出数も減少傾向が認められていない。

インフルエンザ:2000年7月。オ-ストラリア、カナダ、南アフリカ、ウルグアイいずれもA型(H1N1)とB型。

7月7日-13日届出。コレラ:マダガスカル、ニジェ-ル、ザンビア、インド、ミクロネシア。

2000年7月21日号(75巻29号)

急性出血熱。アフガニスタン(その後の状況:前報は25号)。現在までに27例報告があり16例死亡。ヘラ-ト州(アフガニスタン北西部)グルラン地区。WHO、南アフリカ国立ウイルス研究所などの国際チームがウイルス検査実施中(注:最近数年間、中央アジア諸国や中近東でダニによって媒介されるクリミア・コンゴ出血熱ウイルス感染症の報告があり、本発生もその一つと思われます。シルクロ-ドの旅の要注意疾患です)。

マラリア:殺虫剤処理をした蚊帳普及の問題点。マラリア常在地における蚊対策として殺虫剤処理(注:マラリア媒介蚊は家屋に侵入後一旦何かにとまってから人を吸血するので蚊帳の表面に蚊の皮膚から浸透する殺虫剤を浸して蚊の撲滅を試みると有効性が高いことが確かめられている)が安価かつ有効な手段として普及が試みられているが、公衆衛生学的な予防手段であるにもかかわらず税制上の優遇措置などがないために金額がかさんで普及していない。2000年ナイジェリアのアブジャでマラリア対策の国際会議が開催され知識普及をはじめとする勧告がされた。本報告はそのまとめである。

中国の新しい経済開放区の国際空港の検疫関連のチェックをWHOが実施した。

世界のサルモネラの状況がインターネットで入手出来るようになった。

検疫病の世界における郡(Area)単位の届出状況:7月20日。

インフルエンザ:2000年7月。アルゼンチン、チリ。A型とB型。

7月14日-7月20日届出。コレラ:マレ-シア、シンガポ-ル。

愛知県衛生研究所企画情報部（文責 磯村）

途上国ボケ（60歳を過ぎたら回復に日数を要するようになりました）と連日の暑さで明日で8月も終わりだというのに、夏休みの宿題が全然すすんでいない有様です。いつも貴重な情報を有難うございます。8月後半のまとめをお送りします。

1．名古屋市内：ヘルパンギーナと手足口病が相変わらず流行中です。口内疹がひどい例や発熱、脱水で点滴や入院が必要な例も目立ちますが特に例年以上の重症化の傾向はないようです。無菌性髄膜炎の入院例も目立っていますが例年より多発しているとか脳炎合併例が多いというような情報はいただいていません。外国からの重症の手足口病などの輸入報告も届いていません。夏カゼ髄膜炎の入院増と同時にムンプスとムンプス髄膜炎の報告例が目立っています（第一日赤有吉先生、国立病院松下先生、城北病院渡辺先生、千種区今枝先生、三菱病院岩間先生、中京病院柴田先生、労災病院山田先生、大同病院水野先生）。咽頭結膜熱、流行性角結膜炎が多い地区（大同・水野先生）、膿痂疹や膿痂疹にカポジ水痘様発疹症合併例、ブ菌性火傷様皮膚症候群などが散発している地区があります（労災・山田先生、三菱・岩間先生、千種区今枝先生、城北・渡辺先生）。感染性胃腸炎が散発（千種区今枝先生）、サルモネラによる感染性腸炎（三菱・岩間先生）、重症の単純ヘルペス初感染症とEBウイルス感染症、腺窩性扁桃炎による入院（労災・山田先生）、気管支炎・喘息性気管支炎、肺炎（労災・山田先生、大同・水野先生；気管支炎で咳嗽のひどい例にはクラミジア・ニューモニア抗体上昇例がかなりある、三菱・岩間先生、第一日赤有吉先生）、百日咳（労災・山田先生）などのお手紙が目につきました。麻疹の散発ないし小流行が続いています（中京・柴田先生、千種区今枝先生、国立・松下先生、第一日赤有吉先生）。ワクチンキャンペーンを進めたく思っています。

2．尾張地区：常滑市民病院肥田先生からは手足口病が多発中でムンプスの小流行あり、半田市立病院からはムンプスの小流行があり麻疹1例、百日咳による入院1例ありとのお手紙でした。

3．三河地区：加茂病院大須賀先生からはヘルパンギーナ、手足口病、伝染性膿痂疹が多発中で病棟では年長児のウイルス性の肺炎が多い、安城更生病院小川先生からはムンプスが目立ちムンプス髄膜炎の入院数例あり、麻疹が散発中で無菌性髄膜炎数例あり、知立市近藤先生からは病原性大腸菌O6感染症1例、手足口病が流行中、溶連菌感染症が多く、発熱を伴う嘔吐下痢症が散発、麻疹2例、百日咳1例、刈谷市田和先生からはヘルパンギーナ、水痘、感染性胃腸炎、伝染性紅斑が散発中、豊橋市宮澤先生からは手足口病の流行が高まり無菌性髄膜炎併発例がみられ、突発疹が目立つとのお手紙でした。有難うございました。